

科学的根拠で考える

3学期始業によせて

2023・1・10 校長 重枝一郎

新年あけましておめでとうございます。集大成の3学期です！

～「友だち」の影響について～

※科学的根拠＝ランダム化比較試験という偏りのない多くのアンケート等のデータからの研究結果によるもの

人は、何か成果を上げたときのスピーチ等で「よい友人に恵まれて、素晴らしい時間を過ごすことができた」等、「友だち」等に対する感謝の言葉が聞かれることが多くあります。中・高年代は特に、「友だち」が与える影響を強く受ける年代という**科学的根拠**があります。これは、私たち大人は自分の昔を思い出してみると理解できます。

今号は、ミッションAL「自分よし・相手よし・みんなよし」の視点から、「友だち」が与える影響（ピア・エフェクト）についての**科学的根拠**について書きます。

ちなみに、ミッションALとは、一コマの授業で、まず「50分後になりたい自分」というマインドセットをし、次に思考を停止・放棄せず、そして最後にチャレンジするという本校の一コマの学習プロセスのことです。ただこの学習プロセスで重要なのは、自分だけでなく、自分たちであるということなのです。だから、私がよく言う「自分よし・相手よし・みんなよし」なのです。

① 同じクラスや学年の「友だち」の学力から受けるピア・エフェクト

学習をよくする友だちの中にいると、自分の学力にもプラスの影響があるという**科学的根拠**がある。先生たちが、クラスの学習ルールづくりや受験期において「受験は団体戦」などという背景にはそういった根拠がある。

② 成績の良いクラスメイトから受けるピア・エフェクト

入試においても成績優秀者を奨学生として入学させている。これは、その優秀者が周囲にも良い影響を与えると期待してのことである。しかし、**科学的根拠**としては、その影響を受けるのは、もともと学力が高い生徒のみで、中間層や学力が低い生徒には何ら影響を受けないことがわかっている。この**科学的根拠**から習熟度グループ等の取組が考えられる。習熟度グループにすることで大きな効果をもたらしたのは、実は学力が低かった生徒たちという**科学的根拠**がある。これは、学習意欲を失うことなく、互いに助け合うことができるからである。しかし、この習熟度グループは、小学校低学年では、格差を拡大し、平均も下がってしまうというデータもある。中学生ではその逆になる。よって、習熟度で取り組ませる科学的根拠はある。

③ 授業妨害をする生徒から受けるピア・エフェクト

これは、**科学的根拠**として、クラス全体の学力に負の因果効果を与えることが明らかになっている。「成績」よりも「行動」に対して受ける因果効果は大変大きい。「行動」が負の影響を受けるということは、「相手よし・みんなよし」にはならない。よって、妨害する生徒がいたら速やかにケアを行う必要がある。これは本人のためにもなり、「自分よし・相手よし・みんなよし」から考えても必要なことである。万が一、負の影響が進んだ状態の場合は、「友だち」を変え、生活習慣を変え、そして負のピア・エフェクトを小さくすることが、本来の自分に戻りやすいという**科学的根拠**も示されている。